

## ・分担研究報告

### 1 . チック症の早期アセスメント作成に関する研究

金生由紀子

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）  
分担研究報告書

チック症の早期アセスメント作成に関する研究

研究分担者 金生由紀子

東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野 准教授

研究要旨

チック症は発達障害に含まれ、幼児期後期に発症することが多く、精神行動上の問題を伴うことがある。そこで、この時期におけるチック及び精神行動上の問題の実態を把握した上で、チックと精神行動上の問題や支援のニーズとの関連を検討して、支援への示唆を得ることを目指した。都内 A 区立の全保育園に通う年中及び年長年代の幼児について、チック及びその他のくせとこだわりに関する質問、その他の精神行動上の問題に関する質問、子どもに関する支援のニーズに関する質問からなる調査を保護者に依頼した。2592 名中 776 名（29.9%）から回答が得られた。何らかのチックが確かにあった者が 20.4%であり、ICD-10 の記述と合致していた。チックがある子どもの中で、チックが毎日である場合が 31%、チックが 1 年間以上持続している場合が 71.9%と、かなりの率であった。チックを有するとそうでない場合よりも精神行動上の問題や支援のニーズが有意に高かった。以上よりこの時期におけるチックの重要性が確認された。どのようなチックが精神行動上の問題や支援のニーズと関連が深いかなど、さらなる検討が望まれる。

A．研究目的

チックは突発的、急速、反復性、非律動性の運動あるいは発声であると定義されている。ICD-10 では、おそらく 5 人～10 人の小児に 1 人が、ある時期にチックを呈するとされている。チックで定義される症候群がチック症であり、その中で、持続期間が 1 年未満である暫定的チック症が多いが、1 年以上である持続性（慢性）チック症も数%程度いると考えられる。チックの平均発症年齢は 4～6 歳とされており、その後比較的短期間に軽快するが多いが、少なくとも 10%程度は持続性となる可能性が

ある。

チック症は、発達障害者支援法に定める発達障害に該当すると同時に、DSM-5 による神経発達症群に含まれる。また、チック症は、注意欠如多動症（ADHD）や自閉スペクトラム症（ASD）などの代表的な発達障害に加えて、強迫症状を中心とする様々な反復行動で特徴づけられる強迫症及び関連症群を併発しやすい。従って、チックを持つ子どもは、他の発達障害やいわゆるくせとこだわりを中心とする精神行動上の問題を伴うことがあり、それらも含めて実態を把握することが望まれる。

さらに、チック症が発達障害に含まれるにもかかわらず、親の育て方によるとの誤解がいまだにあり、チックを持つ子どもを早期に把握して適切な情報提供などの支援を行うことが望まれる。

以上より、本分担研究では、チックの好発年齢である幼児期後期においてチック及びくせとこだわりを中心とする精神行動上の問題の実態を把握した上で、チックと精神行動上の問題や支援のニーズとの関連を検討して、チックを持つ子どもに対する支援への示唆を得ることを目指す。

## B．研究方法

### 1．研究の手順

#### 1) 手順の立案と修正

当初は、都内 A 区立の全保育園に通う年中及び年長年代の幼児（4 歳児及び 5 歳児）について、保護者、担当保育士及び巡回相談者に対して、チック及びその他のくせとこだわりに関する質問、その他の精神行動上の問題に関する質問、子どもに関する支援のニーズに関する質問からなる調査を依頼することを計画した。三者の評価に基づいて実態を多面的に把握できると共に、巡回相談者による評価や支援についての示唆が得やすいと期待してのことであった。

しかし、A 区と相談を重ねる中で、保護者のみの調査でなければ実施が困難であることが判明した。そこで、A 区では保護者のみに調査を依頼することとして、その補完を目指して、B 市の 1 保育園で当初の予定通りの調査を小規模ながら実施することとした。ところが、B 市の保育園での担当保育士及び巡回相談者による評価が実施できず、本年度は、全体として保護者のみの

調査となった。

#### 2) 本年度に実施した手順

先述した経緯から、本年度は、A 区立の全保育園及び B 市の 1 保育園に通う年中及び年長年代の幼児について、保護者による質問紙調査を実施した。保育園を通じて保護者に質問紙を渡して、研究者宛に回答を郵送してもらった。A 区での調査は、2016 年 12 月、B 市の保育園での調査は、2017 年 2 月～3 月に実施した。全保育園で年中年代の幼児について、翌年度に実施予定の再調査への協力を募った。

なお、本年度は、A 区で得られたデータを解析した。

### 2．調査票

#### 1) チックに関する調査票・1

英国の大規模コホート調査である Avon Longitudinal Study of Parents and Children (ALSPAC) で使用されている項目 (Scharf et al., 2012) を参考にして、8 項目からなる調査票を作成した。8 項目の中で、運動チックに関する 3 項目、音声チックに関する 2 項目及びチックの頻度に関する 1 項目については、ALSPAC の項目を和訳して用いた。運動のチックとしては、(1) 顔面や頭部の繰り返す動き、(2) 首、肩または胴体の繰り返す動き、(3) 腕、手、脚または足の繰り返す動きについて、音声のチックとしては、(1) 音や声の繰り返し、(2) 単語や言葉の繰り返しについて問うた。この 6 項目に、本人の苦痛に関する 1 項目及びチックの 1 年以上の持続に関する 1 項目を加えた。チックの持続が 1 年未満であれば暫定的、1 年以上であれば持続性（慢性）となる。頻度に関する項目は 5 段階であるが、それ以外は、「0: まったくない」～「2:

確かにあった」の3段階で評価する。

2) チックに関する調査票・2 (チックに関する自己記録 (Tic Symptom Self Report: TSSR))

運動チック20項目、音声チック20項目について、「0: 過去1週間は症状がまったくなかった」～「3: チックは非常にしばしばあり、とても強かった」の4段階で評価する。チックの治療の効果の評価にも用いられてきている (Chappell et al., 1995; Leckman et al., 1988)。日本語版は逆翻訳を経て確立している。

なお、「チックに関する調査票・1」のいずれかに対して、「1: あったかもしれない」または「2: 確かにあった」と回答した場合のみ、この調査票に回答を求めた。

3) その他のくせとこだわりに関する質問

強迫様行動に関する調査票 (Childhood Routine Inventory: CRI) の日本語版を使用した (Evans et al., 1997; Yamauchi et al., 2016)。19項目は、CRIの原版と同じで、「1: 全くない決してない」～「5: 大変多いいつも」の5段階で評価する。但し、原版では各項目について発症年齢及び強迫様行動へのとらわれを評価していたが、日本語版では割愛している。代わりに、20項目に、1～19項目のいずれかをしないとつらそうかを5段階で評価する。

4) その他の精神行動上の問題に関する調査票

本研究のために独自に作成した。精神行動上の問題には、発達特性 (ASD 特性、ADHD 特性、知的障害) 6項目に加えて、内在化問題2項目及び外在化問題2項目を含めた。いずれも「1: ない」～「3: よくある」の3段階で評価する。

5) 子どもに関する支援のニーズに関する調査票

本研究のために独自に作成した。子育ての悩み、子どもの発達、子どものくせやこだわりについて、相談や助言を求めるかを、「1: ない」～「3: よくある」の3段階で評価する。また、子育てが楽しいかについても同様に評価する。

(倫理面への配慮)

本研究の実施に先立って、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認を得た (承認番号: 11316)。調査の依頼状には、調査への参加は任意であること、不参加によって不利益を生じないこと、回答の返送によって調査に同意したとみなすこと、調査を途中で中止できること、調査による直接的な利益はないことを記した。

## C. 結果

1) 回答状況と対象の属性

A区で園児が在籍している区立保育園は59園であった。年中年代児が1231名、年長年代児が1261名であり、合計2592名であった。2592名中776名について回答が得られた (回答率: 29.9%)。

対象の属性としては、性別は761名について回答があり、男児404名、女児357名であった。年代は764名について回答があり、年中年代378名、年長年代386名であった。年齢は765名について回答があり、4歳代95名、5歳代380名、6歳代290名であった。年中年代378名中195名 (51.6%) について翌年度の調査への協力の意思が示された。

2) チックについて

チックに関する調査票・1には751名から回答があり、その結果を表1に示した。顔面や頭部の繰り返す動きという典型的な運動チックについては、あったかもしれないまたは確かにあったを合わせて176名(23.4%)で、確かにあったが83名(11.1%)であった。音や声の繰り返しという典型的な音声チックについては、あったかもしれないまたは確かにあったを合わせて151名(20.1%)で、確かにあったが58名(7.7%)であった。性別、年齢別でも表に示した(表2、表3)。運動チック、音声チック、チック全体のいずれについても男児の方が女児より有意に多かった(それぞれ  $p=.01$ ,  $p=.002$ ,  $p=.005$ )。運動チックとチック全体について、年中年代の方が年長年代よりも有意に多かった(それぞれ  $p=.02$ ,  $p=.02$ )。また、チックがあったかもしれないまたは確かにあった者についてみると、頻度が毎日である場合は267名中83名(31%)であった。頻度が1週間以上の場合まで広げると、267名中188名(70.4%)であった。チックについて子どもが困ったり悩んだりしていると思われる場合は267名中39名(14.6%)であった。発症から1年間以上持続していると思われる場合は267名中192名(71.9%)であった。

チックに関する調査票・2(TSSR)には213名からチックがあるとの回答があった。運動チックについて得点を合計すると(0~60点)平均1.4点(SD: 3.5)であった。音声チックについては(0~60点)平均2.2点(SD: 4.2)であった。両者を合わせたチック全体については(0~120点)平均4.1点(SD: 7.7)であった。チック全体の得点の分布図を図1に示す。個々の運動チック

の評点をみると最も高かったのは「繰り返し何かを触る」であり、平均0.2点(SD: 0.7)であった。「繰り返し何かを触る」があった者は26名であり、そのうちで過去1週間にチックがしばしばまたは非常にしばしばあった者が15名、非常にしばしばあった者が8名であった(表4)。典型的な運動チックとされる「まばたき」があった者が最も多く、28名であった。個々の音声チックの評点をみると最も高かったのは「鼻歌を歌う」であり、平均0.3点(SD: 0.6)であった。「鼻歌を歌う」があった者は47名であり、そのうちで過去1週間にチックがしばしばまたは非常にしばしばあった者が9名、非常にしばしばあった者が2名であった(表5)。「鼻歌を歌う」に次いで多かったのが典型的な音声チックとされる「咳払い」であり、36名で認められた。

3) その他のくせとこだわりを含めた精神行動上の問題について

CRIには727名から回答があり、19項目の評点を合計すると(19~95点)平均36.0点(SD: 11.6)であった。くせやこだわりをしないとつらそうかについては、平均1.4点(SD: 0.8)であった。つらそうなことが少し/まれに以上ある(2点以上である)者は197名(27.1%)であった。

精神行動上の問題としては、発達特性に対応する6項目の評点を合計すると(6~18点)平均8.1点(SD: 2.5)であった。その中でもASD特性に対応する2項目については(2~6点)平均2.7点(SD: 1.0)、ADHD特性に対応する3項目については(3~9点)平均4.2点(SD: 1.5)であった。また、内在化問題に対応する2項目については(2~6点)平均3.1点(SD: 1.1)で

あり、外在化問題に対応する 2 項目については(2~6 点)、平均 2.8 点(SD: 1.0)であった。これらの精神行動上の問題を合わせると(10~30 点)、平均 13.9 点(SD: 3.6)であった。

#### 4) 支援のニーズについて

支援のニーズに対応する 3 項目の評点を合計すると(3~9 点)、平均 4.5 点(SD: 1.6)であった。特に、くせやこだわりに関する支援のニーズは、平均 1.4 点(SD: 0.6)であり、よくある者が 188 名(24.9%)であった。

#### 5) チックの有無からみた精神行動上の問題や支援のニーズ

何らかのチックがあったかもしれないまたは確かにあった場合にチック有として、チック無との比較を行った。その際に、得点分布に正規性が確認されなかったため、U 検定を用いた(表 6)。精神行動上の問題は、発達特性、内在化問題、外在化問題のいずれについても両群間で有意差が認められた。また、支援ニーズについても両群間で有意差が認められたが、子育ての楽しさについては差がなかった。

チック有の範囲を狭めて、チックが確かにあった場合のみをチック有として、チック無と比較しても同様の傾向が認められた(表 7)。

#### 6) チックの影響の検討

「くせやこだわりへの支援ニーズ」と「くせについて子どもが悩んだり困ったりする様子」の相関を検討したところ、有意な相関を認めなかった( $r=.05$ )(Spearman の順位相関係数)。

次に、TSSR に該当するチックに関する

40 項目について、「くせやこだわりへの支援ニーズ」との相関を検討した。運動チックでは、「繰り返し何かに触る」( $r=.28$ )、「指や手の動き」( $r=.25$ )、「普通ではないからだの姿勢」( $r=.21$ )、「頭の動き」( $r=.19$ )、「わいせつな仕草」( $r=.15$ )で有意な相関を認めた。音声チックでは、「話が途切れてしまう」( $r=.31$ )、「ひとつの単語や音を繰り返す」( $r=.26$ )、「キーキー鳴く、甲高い声」( $r=.15$ )で有意な相関を認めた。

さらに、TSSR に該当するチックに関する 40 項目について、「くせについて子どもが悩んだり困ったりする様子」との相関を検討したところ、運動チックでは、「腕や足の緊張」( $r=.25$ )で有意な相関を認めたが、音声チックでは有意な相関を認めた項目はなかった。

## D. 考察

本研究では、都内 A 区立の全保育園に通う幼児期後期の約 800 名についてチック、くせとこだわりを中心とする精神行動上の問題、保護者の支援ニーズを明らかにした。典型的な運動チックが確かにあったという頻度が 11.1%、典型的な音声チックが確かにあったという頻度が 7.7%であり、チックを有する幼児が少なくないことが確認された。また、チックがある子どもの中で、チックが毎日である場合が 31%、チックが 1 年間以上持続している場合が 71.9%であり、幼児期のうちにチックが頻回であったり慢性化したりしていることが例外ではないことも示された。さらに、慢性化したチックは 10~12 歳頃に最悪時を迎えるとされることや幼児期には自己認知の発達が不十分であることから、幼児期にチックに悩むこ

とは少ないと想像していたにもかかわらず、14.6%で認められ、チックがこの時期にも看過できない問題であると改めて認識された。

チックの有無で精神行動上の問題や保護者の支援のニーズを比較すると、チックが有る場合に、幅広い問題や支援のニーズが有意に高いことが示された。そういう点でもチックの重要性が確認された。同時に、チック症、特にトゥレット症候群では、併発症としてADHD及び強迫症(OCD)が高率であることが知られているが、本研究の結果からは特定の問題が突出して関連しているとまでは言えなかった。

本研究の限界としては、当初の予定と異なり保護者のみの評価によることが挙げられる。しかも多様なチックに関する質問項目の中には、複雑チックを想定しているが子どもの随意的な行動との区別がしにくいものもあり、典型的なチックに重点を置いて検討を進めることが望まれよう。また、回答率が約30%であり、回答者と非回答者の属性を比較検討できないことから、本研究の結果をA区全体、さらには東京都全体にすべて一般化することは困難である。

今後これらの限界を念頭に置きつつもさらなる検討を進める余地があると思われる。チックの中でも精神行動上の問題に特に関連が深いものがあるのか、さらには、子ども自身のチックの悩みや保護者の支援ニーズとはどうかを検討することによって、チックに対する理解を深めて支援への示唆が得られると思われる。そして、巡回相談にあたってより留意すべき点も明らかになると期待される。

最後に、限界も考慮しつつ本研究を踏ま

えて、チックに関する代表的な質問項目の作成に向けて検討した。

TSSRに該当するチックの項目の中で、得点が高かったり支援ニーズとの有意な相関が認められたりすると共に、チック以外のものと混同される恐れが少ないものを選ぶこととした。運動チックとしては、「繰り返し何かを触る」、「まばたき」、「指や手の動き」、「普通ではないからだの姿勢」、「頭の動き」が挙げられた。これらは、ALSPACを参考にした、(1)顔面や頭部の繰り返す動き、(2)首、肩または胴体の繰り返す動き、(3)腕、手、脚または足の繰り返す動きの3項目にほぼ含まれていた。そこで、この3項目についてより分かりやすい例示を付けて質問項目とした。

音声チックとしては、幼児期に複雑音声チックを認めることが少ないとの従来の見解を参考に、「鼻歌を歌う」、「咳払い」、「コンコン咳をする」を採用した。「鼻歌を歌う」については、随意的な行動と誤解される恐れがあるので、より具体的に「ハミングのようにフンフン言う」とした。以上を表8のようにまとめた。

今後、収集したデータについてはさらに検討を進める余地があると思われる。例えば、チックの中でも精神行動上の問題に特に関連が深いものがあるのかである。このような検討によって、巡回相談にあたってより留意すべき点も明らかになると期待される。

## E．結論

幼児期後期に何らかのチックが確かにあった者が20.4%であり、ICD-10の記述と合致していた。頻度の高いチックや1年間以

上持続するチックが少なくないこと、チックを有すると精神行動上の問題や支援のニーズが高いことから、この時期におけるチックの重要性が確認された。どのようなチックが精神行動上の問題や支援のニーズと関連が深いかなどさらなる検討が望まれる。

研究協力者（所属）

藤尾未由希、松田なつみ、信吉真璃奈、野中舞子、後藤隆之介、河野稔明（東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野）

参考文献

- 1) Scharf JM, Miller LL, Mathews CA, Ben-Shlomo Y. Prevalence of Tourette syndrome and chronic tics in the population-based Avon longitudinal study of parents and children cohort. *J Am Acad Child Adolesc Psychiatry*. 2012; 51(2): 192-201.e5.
- 2) Chappell PB, Riddle MA, Scahill L, Lynch KA, Schultz R, Arnsten A, Leckman JF, Cohen DJ. Guanfacine treatment of comorbid attention-deficit hyperactivity disorder and Tourette's syndrome: preliminary clinical experience. *J Am Acad Child Adolesc Psychiatry*. 1995 ; 34(9): 1140-1146.
- 3) Leckman JF, Towbin KE, Ort SI, Cohen OJ. Clinical assessment of tic disorder severity. In: *Tourette Syndrome and Tic Disorders: Clinical Understanding and Treatment*, Cohen OJ, Bruun R, Leckman JF, eds, New

York: Wiley, 1988.

- 4) Evans DW, Leckman JF, Carter A, Reznick JS, Henshaw D, King RA, Pauls D. Ritual, habit, and perfectionism: the prevalence and development of compulsive-like behavior in normal young children. *Child Dev*. 1997; 68(1):58-68.
- 5) Yamauchi H, Ogura M, Mori Y, Ito H, Honjo S. The effects of maternal rearing attitudes and depression on compulsive-like behavior in children: The mediating role of children's emotional traits. *Psychology* 2016; 7(2): 133-144.

F . 研究発表

1 . 論文発表

- 1) 藤尾未由希, 金生由紀子, 松田なつみ, 野中舞子, 河野稔明, 下山晴彦. 衝動性を有するトゥレット症候群の子どもの保護者の心理過程. *臨床心理学*, 16(6) : 723-732 , 2016 . (査読有)
- 2) 金生由紀子. 日常生活の中で衝動的に生じる反復行動. *精神科治療学*, 32(1) : 107-110 . 2017 . (査読無)
- 3) 金生由紀子. 子どものこだわりの芽生えと発達. *児童心理*, 70(14) : 12-18 , 2016 . (査読無)
- 4) 金生由紀子. 習癖, チック障害, Tourette 症候群. *小児内科*, 48 : 786-789 , 2016 . (査読無)
- 5) 金生由紀子. チック関連強迫症について - チック症を併発する強迫症の特徴 - . *精神科治療学*, 32(3): 335-341 , 2017 . (査読無)



- 6) 金生由紀子. 小児科疾患の治療における現状と問題, 今後について - チックおよび強迫症状に特徴づけられる疾患を中心に - . Legato, 3(1): 38-41, 2017 (査読無)
- 7) 金生由紀子. トウレット障害児・者への支援と対応. 日本医師会雑誌, 145(11): 2355-2359, 2017. (査読無)

## 2. 学会発表

- 1) 金生由紀子. トウレット症候群の理解と治療. 第1回トウレット症候群治療推進学会学術総会, 大阪, 2016.5.3.
- 2) Kano Y, Matsuda N, Nonaka M, Fujio M, Kaji N, Kono T: Impact of Sensory Phenomena on Clinical Characteristics of Patients with Tourette Syndrome. The Royal Australian & New Zealand College of Psychiatrists (RANZCP) 2016 Congress, Hong Kong, 2016.5.8-12.
- 3) Garcia-Delgar B, Moyano MB, Kano Y, de Larrechea A, Nonaka M, Coffey BJ: Depression and Anxiety in Tourette's Disorder: An International Perspective. The 60th Congress of the Spanish Association for Child and Adolescent Psychiatry (AEPNYA) co-organized with the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry (AACAP), San Sebastián, 2016.6.1-4.
- 4) 金生由紀子. 自閉スペクトラム症と従来の精神疾患との関連. 第112回日本精神神経学会学術総会, 千葉, 2016.6.4.
- 5) Kano Y. Pharmacotherapy for Tourette Syndrome and Tic Disorders in Japan. The 22nd International Association for

Child and Adolescent Psychiatry & Allied Professions World Congress (IACAPAP), Calgary, 2016.9.18-22.

6) Kano Y, Fujio M, Kaji N, Matsuda N, Nonaka M, Kono T. Change in Sensory Phenomena and Related Features over the Clinical Course of Tourette Syndrome. The 22nd IACAPAP, Calgary, 2016.9.18-22.

7) Ishii-Takahashi A, Kawakubo Y, Nakajima N, Kuwabara H, Kano Y. A Pilot, Open Trial of Behavioral Parent Training vs. Routine Clinical Care Among Parents of Children With Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder, The 63rd Annual Meeting of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry (AACAP), New York, 2016.10.27.

8) Garcia-Delgar B, Luber M, Larrechea A, Moyano B B, Redondo M, Morer A, Nonaka M, Kano Y, Coffey B J, Depression and Anxiety in Tourette's Disorder: An International Perspective, The 63rd Annual Meeting of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry (AACAP), New York, 2016.10.29.

9) 金生由紀子. トウレット症候群の特徴を踏まえた包括的な対応を目指して. 日本LD学会第25回大会, 神奈川, 2016.11.19.

## G. 知的財産権の出願・登録状況

- 1) 特許取得  
なし

2) 実用新案登録

なし

3) その他

なし

表1 チックの概要

	あったかもしれない+確かにあった	確かにあった
顔面や頭部の繰り返す動き	176名(11.1%)	83名(23.4%)
首、肩または胴体の繰り返す動き	74名(9.9%)	28名(3.7%)
腕、手、脚または足の繰り返す動き	121名(16.1%)	63名(8.4%)
音や声の繰り返し	151名(20.1%)	58名(7.7%)
単語や言葉の繰り返し	115名(15.3%)	43名(5.7%)
何らかの運動チック	224名(29.8%)	118名(15.7%)
何らかの音声チック	151名(20.1%)	58名(7.7%)
何らかのチック	267名(35.6%)	141名(20.4%)

表2 チックがあったかもしれない+確かにあった子どもの性別

	男(n=404)	女(n=357)	合計(n=776)
何らかの運動チック	131	87	224
何らかの音声チック	97	54	151
何らかのチック	156	105	267

表3 チックがあったかもしれない+確かにあった子どもの年齢別

	年中年代(n=378)	年長年代(n=386)	合計(n=776)
何らかの運動チック	124	96	224
何らかの音声チック	82	68	151
何らかのチック	145	118	267

表4 TSSR 得点の高い運動チック（上位の5種類）

	平均得点 (SD)	たまにあり以上 (1~3点以上)	しばしばあり以上 (2~3点以上)
1. 繰り返し何かを触る	0.23 (0.69)	26名	15名
2. まばたき	0.18 (0.54)	28名	7名
3. 何かをつまんで引っ張る (服など)	0.16 (0.55)	23名	7名
4. わいせつな仕草	0.16 (0.52)	23名	8名
5. スキップする/体を回す	0.15 (0.47)	25名	7名

表5 TSSR 得点の高い音声チック（上位の5種類）

	平均得点 (SD)	たまにあり以上 (1~3点以上)	しばしばあり以上 (2~3点以上)
1. 鼻歌を歌う	0.27 (0.57)	47名	9名
2. 咳払い	0.23 (0.57)	36名	11名
3. 一つの単語や音を繰り返す	0.19 (0.56)	28名	9名
4. 自分の言った言葉や文章を 繰り返す	0.19 (0.52)	31名	6名
5. コンコン咳をする	0.16 (0.43)	32名	3名

表6 チックの有無による精神行動上の問題の比較・1

	チック有		チック無		統計量	
	平均	SD	平均	SD	Z 値	p 値
発達特性	9.0	2.9	7.5	2.0	7.8	<.001
ASD 特性	3.0	1.2	2.5	0.8	6.7	<.001
ADHD 特性	4.7	1.7	3.9	1.3	7.0	<.001
内在化問題	3.4	1.2	2.9	1.1	4.8	<.001
外在化問題	3.0	1.1	2.6	0.9	4.6	<.001
精神行動上の問題	15.4	4.0	13.1	3.1	8.0	<.001
支援ニーズ	4.8	1.8	4.3	1.5	3.9	<.001
くせとこだわりへの支援ニーズ	1.5	0.7	1.3	0.6	3.9	<.001
子育ての楽しさ	2.7	0.5	2.7	0.6	0.4	.70
CRI (1~19 項目)	39.6	12.1	34.3	10.9	5.8	<.001
CRI (20 項目)	1.6	0.9	1.4	0.8	3.3	<.001

注:「何らかのチックがあったかもしれない+確かにあった」と「まったくない」の2群で比較

表7 チックの有無による精神行動上の問題の比較・2

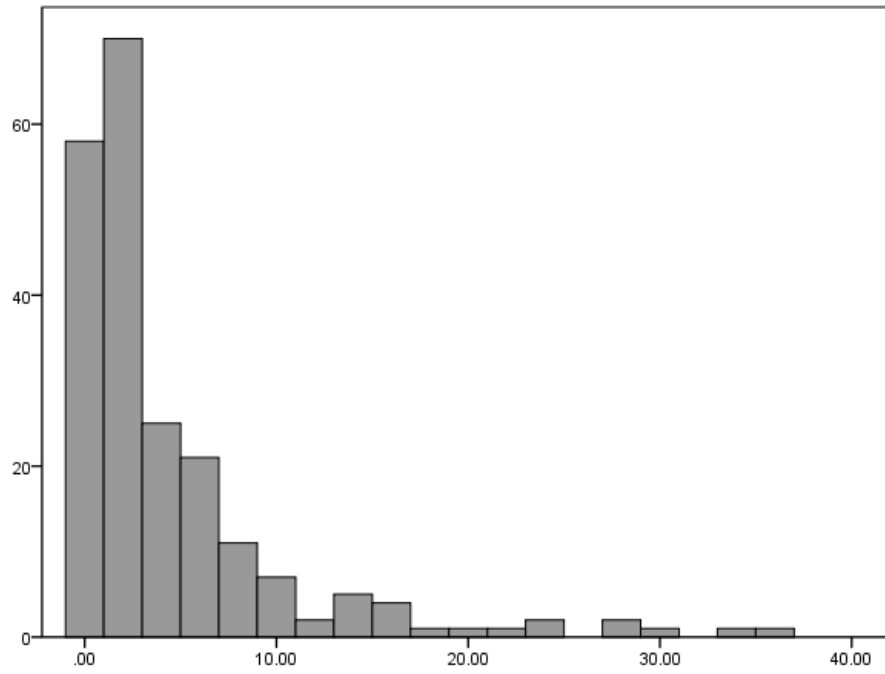
	チック有		チック無		統計量	
	平均	SD	平均	SD	Z 値	p 値
発達特性	9.3	3.2	7.5	2.0	6.6	<.001
ASD 特性	3.1	1.3	2.5	0.8	5.1	<.001
ADHD 特性	4.9	1.8	3.9	1.3	6.1	<.001
内在化問題	3.5	1.2	2.9	1.1	4.1	<.001
外在化問題	3.1	1.1	2.6	0.9	4.4	<.001
精神行動上の問題	15.9	4.3	13.1	3.1	7.1	<.001
支援ニーズ	5.2	1.9	4.3	1.5	5.0	<.001
くせとこだわりへの支援ニーズ	1.7	0.7	1.3	0.6	5.7	<.001
子育ての楽しさ	2.6	0.5	2.7	0.6	1.4	.17
CRI (1~19 項目)	41.1	13.1	34.3	10.9	5.6	<.001
CRI (20 項目)	1.7	1.0	1.4	0.8	3.8	<.001

注:「何らかのチックが確かにあった」と「まったくない」の2群で比較

表 8 チックに関する代表的な質問項目

1. 過去 1 年間に、顔面や頭部の繰り返す動き（例：まばたきなど）のくせは、ありましたか？
2. 過去 1 年間に、首、肩または胴体の繰り返す動き（例：首を振るなど）のくせは、ありましたか？
3. 過去 1 年間に、腕、手、脚または足の繰り返す動き（例：繰り返し何かを触るなど）のくせは、ありましたか？
4. 過去 1 年間に、音の繰り返し（例：コンコン咳をする、咳払いなど）のくせは、ありましたか？
5. 過去 1 年間に、声の繰り返し（例：ハミングのようにフンフン言う）のくせは、ありましたか？

図1 TSSRのチック全体の得点分布



## くせやこだわりをはじめとする お子さんの行動についての調査

あなたの育てていらっしゃるお子さんの行動やお子さんをめぐる思いについてお尋ねいたします。

まず、以下の4項目について、あてはまるものに○をつけてください。

\*お子さんの性別： 男児 ・ 女児

\*お子さんの年齢： 4歳 ・ 5歳 ・ 6歳

\*お子さんの年代： 年中 ・ 年長

\*お子さんとの続柄： 母親 ・ 父親 ・ それ以外

それから、次のページの質問にお答えください。  
このページの他に、調査用紙は6ページあります。  
すべての方が、1～4ページまでお答えください。

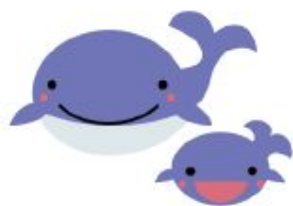
4ページの“くせ”に関する問いのいずれかに対して「1. 確かにあった」  
または「2. あったかもしれない」とお答えになった場合は、  
5ページと6ページの質問にもお答えください。



あなたのお子さんの行動やお子さんをめぐる思いについてお尋ねいたします。 「1. ない」、「2. 少しある」、「3. よくある」の中から、あてはまるものを一つ 選んで○をつけてください。	1 ない	2 少し ある	3 よく ある
1. あなたのお子さんは、他の子どもに興味がないとか、一方的に話すことが ありますか？	1	2	3
2. あなたのお子さんは、自分の興味があることだけに没頭するとか いつもの生活パターンを変えることができないことがありますか？	1	2	3
3. あなたのお子さんは、話しかけられても聞いていないとか、一つの遊びに 集中しないことがありますか？	1	2	3
4. あなたのお子さんは、めまぐるしく動き回って、じっとしてられないですか？	1	2	3
5. あなたのお子さんは、むこうみずな行動をして、目が離せないですか？	1	2	3
6. あなたのお子さんは、同年代の子どもと比べて、言われたことがわからないとか身の 回りのことができないことがありますか？	1	2	3
7. あなたのお子さんは、神経質だったり心配性だったりしますか？	1	2	3
8. あなたのお子さんは、寂しがったりよく泣いたりしますか？	1	2	3
9. あなたのお子さんは、イライラしたりかんしゃく持ちであったりしますか？	1	2	3
10. あなたのお子さんは、ものを壊したり暴力をふるったりしますか？	1	2	3
11. あなたは、子育てに悩んで、相談したいとか助言がほしいと思うことが ありますか？	1	2	3
12. あなたは、お子さんの発達について、相談したいとか助言がほしいと思うことがありま すか？	1	2	3
13. あなたは、お子さんのくせやこだわりについて、相談したいとか助言がほしいと 思うことがありますか？	1	2	3
14. あなたは、子育てが楽しいと感じていますか？	1	2	3

ある年齢になると、子どもは好みが変わるさくなったり、決まったやり方で何かをすることを好むようになります。

以下に、子どものこのような面についての質問があります。各質問の内容が、どれくらいお子さんにみられるかを「1(全くない/決してない)」～「5(大変多い/いつも)」の中からあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。



1	2	3	4	5
全くない/決してない	少し/まれに	多少/ときどき	かなり多い/しばしば	大変多い/いつも

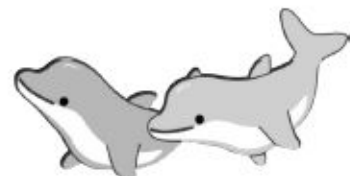
あなたのお子さんは、

- |     |   |   |   |   |   |   |
|-----|---|---|---|---|---|---|
| 1.  | 物事がある特別な順序 <small>しゆんじゆ</small> やある一定のやり方でなされるのを好みますか？(すなわち、子どもは完全主義ですか？)           | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2.  | 大好きな何か一つのものに強い愛着 <small>あいしやく</small> (執着 <small>しやくしやく</small> )を示しますか？            | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3.  | 汚 <small>け</small> れや清潔 <small>けいせつ</small> であること、またはきちんとしていることを、とても気にしているように見えますか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4.  | 子ども自身が“これで良い”と思えるまで物を並べ替えたり、ある行動をやり続けたりしますか？  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5.  | 執拗 <small>しやくごう</small> な癖 <small>くせ</small> がありますか？                                | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6.  | 物をまっすぐに並べたり、対称的 <small>たいじうてき</small> に並べたりしますか？                                    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7.  | 家でのスケジュールや日課 <small>にっか</small> が毎日同じであることを好みますか？                                   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8.  | ごっこ遊びで同じことを繰り返し繰り返し行いますか？   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9.  | 家の周りにある特定の物を“決まった位置”に置いておくことにこだわりますか？   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. | ある行動を繰り返し行いますか？   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

1 2 3 4 5  
 全くない／決してない  
 少し／まれに  
 多少／ときどき  
 かなり多い／しばしば  
 大変多い／いつも

あなたのお子さんは、

11.	特定の食べ物を強く好みますか？	1	2	3	4	5
12.	特定の食べ方で食べることを好みますか？	1	2	3	4	5
13.	特定の服の感 <sup>かんじ</sup> 触 <sup>ふ</sup> をととても気にしたり、敏感であつたりしますか？	1	2	3	4	5
14.	特定の衣 <sup>い</sup> 類 <sup>るい</sup> を身に付けること（付けないこと）に対して、強い好みがありますか？	1	2	3	4	5
15.	物を集めたり、ためこんだりしますか？	1	2	3	4	5
16.	家の中の細かい点（床の上のドロ汚れや、おもちゃや衣 <sup>い</sup> 服 <sup>ふく</sup> の欠陥など）をよく知っていたりしますか？	1	2	3	4	5
17.	新しいゲームや活動にうつるより、ひとつのゲームや活動に固 <sup>こ</sup> 執 <sup>しつ</sup> する方を強く好みますか？	1	2	3	4	5
18.	寝る時間を遅らせるような要 <sup>よう</sup> 求 <sup>きゅう</sup> や言い訳をしますか？	1	2	3	4	5
19.	寝る準備として、特別な行動やおきまりの手 <sup>て</sup> 順 <sup>じゆん</sup> を踏んだり、決まった順 <sup>じゆん</sup> 序 <sup>じゆ</sup> ややり方で何かをしたり言ったりしますか？	1	2	3	4	5
20.	以上の(1. から19. の)行動のいずれかがある場合、それをしないとつらそうですか？	1	2	3	4	5



<p>多くの子どもが変わったくせを持っています。本人はわざとやっているのではありませんし、くせに気づいていないこともしばしばです。</p>	0	1	2
<p>あなたのお子さんが、過去 1 年間に以下のようなくせのいずれかを持っていたかどうかについて、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。</p>	<p>まったく ない</p>	<p>あつたか もしれない</p>	<p>確 かにあつた</p>
1. 顔面や頭部の繰り返す動き(例:まばたき、顔をしかめる、舌を突き出す、唇をなめる、唾を吐く)は、ありましたか?	0	1	2
2. 首、肩または胴体の繰り返す動き(例:体をひねる、肩をすくめる、体を曲げる、首を振る)は、ありましたか?	0	1	2
3. 腕、手、脚または足の繰り返す動き(例:手をたたく、自分や他の人を触る、飛び跳ねる、蹴り上げる)は、ありましたか?	0	1	2
4. 音や声の繰り返し(例:コンコン咳をする、咳払い、プブブと音を発する、喉を鳴らす、シューシューと音を立てる)は、ありましたか?	0	1	2
5. 単語や言葉の繰り返しは、ありましたか?	0	1	2
6. 過去 1 年間に、あなたのお子さんに、以上のようなくせが、確かにあつた、または、あつたかもしれない場合に、どれくらいの頻度で起こったかをお答え下さい。	<p>1. 1ヶ月に1回以下 2. 1ヶ月に1~3回 3. 1週間に約1回 4. 1週間に2回以上 5. 毎日</p>		
	0	1	2
	<p>ま た く た く な い</p>	<p>あ つ た か も し れ な い</p>	<p>確 か に あ つ た</p>
7. 過去 1 年間に、あなたのお子さんに、以上のようなくせが、確かにあつた、または、あつたかもしれない場合に、お子さん自身がそれについて困ったり悩んだりしている様子がありましたか?	0	1	2
8. あなたのお子さんが、1年より前までの期間に、以上のようなくせのいずれかを持っていたことがありましたか?	0	1	2



前ページのくせに関する問いのいずれかに対して「1. 確かにあった」または「2. あったかもしれない」とお答えになった場合、以下の質問にお答えください。

くせを広く考えると、チックも含まれます。チックはしばしばすばやく、ひきつるような動きやくり返す音声のことであり、コントロールしにくいものです。

以下にチックの症状リストを記しますので、その1つ1つについて、過去一週間に「0 = 過去一週間は症状がまったくなかった」から「3 = チックは非常にしばしばあり、とても強かった」のうちから、あてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

	0 " " がまったくなかった。	1 " " 強くはなかった。	2 " " 強かった。	3 " " チックは非常にしばしばあり、とても強かった
運動チックの症状				
1. まばたき	0	1	2	3
2. 目の動き	0	1	2	3
3. あごや口の動き	0	1	2	3
4. 顔のチック	0	1	2	3
5. 頭の動き	0	1	2	3
6. 肩の動き	0	1	2	3
7. 腕の動き	0	1	2	3
8. 指や手の動き	0	1	2	3
9. 足を蹴り上げる	0	1	2	3
10. 腹部の緊張	0	1	2	3
11. 腕や脚の緊張	0	1	2	3
12. 繰り返し何かに触る	0	1	2	3
13. 繰り返し指で何かをトントンたたく	0	1	2	3
14. 自分をたたく	0	1	2	3
15. 何かをつまんで引っ張る(服など)	0	1	2	3
16. 普通ではないからだの姿勢	0	1	2	3
17. スキップする/体を回す	0	1	2	3
18. わいせつな仕草	0	1	2	3
19. 組み合わせさせた動き(具体的に):	0	1	2	3
20. その他の運動チック	0	1	2	3

0 	1 	2 	3 
がまったくなかった。	過去一週間は症状 強くはなかった。	チックはたまにあり、 強かった。	チックは非常にしばしば あり、とても強かった

音声チックの症状

1. ブウブウという音を発する	0	1	2	3
2. 咳払い	0	1	2	3
3. コンコン咳をする	0	1	2	3
4. 鼻ならし	0	1	2	3
5. ヒューと音をたてる	0	1	2	3
6. 鳥のような音声(ほーほー鳴く)	0	1	2	3
7. 動物のような音声(吠える)	0	1	2	3
8. キーキー鳴く, 甲高い声	0	1	2	3
9. その他の音声:	0	1	2	3
10. 喉を鳴らしながら息をのむ	0	1	2	3
11. 鼻歌を歌う	0	1	2	3
12. 呼吸のようなチック	0	1	2	3
13. 一つの単語や音を繰り返す	0	1	2	3
14. 話が途切れてしまう	0	1	2	3
15. 声が変わる(大きさや高さ)	0	1	2	3
16. 卑猥な言葉やののしり	0	1	2	3
17. 自分の言った言葉や文章を繰り返す	0	1	2	3
18. 他の人の言ったことを繰り返す	0	1	2	3
19. 組み合わせさせたチック(具体的に):	0	1	2	3
20. その他:	0	1	2	3